

## 第16回定時理事会・第7回定時評議員会を開催

6月8日(水)帝国ホテルにおいて、当財団の第16回定時理事会を、また6月23日(木)同じく帝国ホテルにおいて第7回定時評議員会を開催しました。

第16回定時理事会、第7回定時評議員会それぞれにおいて、「平成27年度事業報告および決算報告」について審議が行われ、いずれにおいても原案どおり承認されました。

その他、第16回定時理事会においては、「アド・ミュージアム東京リニューアル基本計画の件」「資産運用委員会規程改定の件」「資産運用委員選定の件」が審議され、すべて原案どおり承認されました。



第7回定時評議員会の様子

### 貸借対照表

平成28年3月31日現在

(単位：千円)

科目	金額
<b>I 資産の部</b>	
1.流動資産	166,989
2.固定資産	
(1)基本財産	30,849,956
(2)特定資産	10,060,072
(3)その他固定資産	602,456
資産合計	41,679,473
<b>II 負債の部</b>	
1.流動負債	48,870
2.固定負債	44,337
負債合計	93,207
<b>III 正味財産の部</b>	
1.指定正味財産	39,104,367
2.一般正味財産	2,481,899
正味財産合計	41,586,266
負債及び正味財産合計	41,679,473

また、第7回定時評議員会においては、「会計規程改定の件」および「理事・監事・評議員および顧問の報酬等支給基準規程改定の件」が審議され、いずれも原案どおり承認されました。

### 正味財産増減計算書

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

(単位：千円)

科目	金額
<b>I 一般正味財産増減の部</b>	
<b>1.経常増減の部</b>	
(1)経常収益	
基本財産運用益	341,514
特定資産運用益	95,459
受取寄付金	80,490
雑収益	1,816
経常収益計	519,279
(2)経常費用	
事業費	501,074
管理費	95,709
経常費用計	596,783
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 77,504
評価損益等計	76,064
当期経常増減額	△ 1,440
<b>2.経常外増減の部</b>	
(1)経常外収益	0
(2)経常外費用	2,872
当期経常外増減額	△ 2,872
当期一般正味財産増減額	△ 4,311
一般正味財産期首残高	2,486,210
一般正味財産期末残高	2,481,899
<b>II 指定正味財産増減の部</b>	
基本財産運用益	553,036
特定資産運用益	95,459
特定資産売却償還益	63,561
一般正味財産への振替額	489,055
基本財産評価益	2,534,143
特定資産評価損	379,854
当期指定正味財産増減額	2,377,288
指定正味財産期首残高	36,727,079
指定正味財産期末残高	39,104,367
<b>III 正味財産期末残高</b>	41,586,266

# 平成27年度(第49次)助成研究集の刊行



平成27年度(第49次)の助成研究成果の要旨をまとめた『助成研究集(要旨)』を刊行しました。掲載されている研究テーマや研究者名は以下のとおりです。

助成研究成果の全文は当財団の広告図書館内で、また概要は同図書館ホームページから検索・閲覧可能です。なお、本誌のPDF版は、当財団のホームページ上でご覧いただけます。

※研究者の肩書は報告書提出時のもの

## 【常勤研究者の部】(50音順)

研究テーマ	氏名	所属
エンゲージメント行動を考慮した顧客ミックスとコミュニケーション戦略	小野 謙司 他1名	青山学院大学経営学部 マーケティング学科教授
ソーシャルメディア環境下での情報伝播・拡散のメカニズム分析とシミュレーションモデルの提示	小川 孔輔 他8名	法政大学経営大学院 イノベーション・マネジメント研究科教授
【継続研究】 ライフイベントにおける父親のアイデンティティ形成と消費の関連	菅野 佐織 他1名	駒澤大学 経営学部教授
広報の効果測定に関する実証的研究	橋元 良明 他8名	東京大学大学院 情報学環教授
計4件		

## 【大学院生の部】(50音順)

研究テーマ	氏名	所属
新製品の正当化プロセスに関する研究 ～古案をめぐることばの変化に着目して～	飯島 聡太郎	一橋大学大学院 商学研究科博士後期課程
風評被害による買い控えの低減に効果的なマーケティング・コミュニケーション戦略とは? ～実務レベルへの応用を目指した感情的メッセージと論理的メッセージとの比較検討～	工藤 大介	同志社大学大学院 心理学研究科博士後期課程
新製品の採用意思決定への事例ベース意思決定理論(CBDT)の適用	郷 香野子	慶應義塾大学大学院 商学研究科後期博士課程
物語広告における消費者の処理過程に関する研究 ～プロセスモデルの提案と検証～	福田 怜生	学習院大学大学院 経営学研究科博士後期課程
高関与製品の典型的広告表現が与える負の効果 ～広告画像の典型性と具体性に着目して～	堀田 治	法政大学大学院 経営学研究科博士後期課程
機能性食品の広告と消費者行動 ～消費者の知識と知覚の観点から～	峯尾 圭	早稲田大学大学院 商学研究科博士後期課程
スマートフォンを通じた情報探索がショールーマーとリバーズ・ショールーマーの購買行動に与える影響についての考察～リアル店舗内で収集する情報への満足感と知覚リスク低減効果との関係性の実証研究～	吉井 健	中央大学大学院 戦略経営研究科博士後期課程
計7件		

## 編集後記

**あ**る企業の方とのメールのやりとりを通じ、ブランドのソーシャルな性格について理解が深まっただけでなく、その方ご自身のブランドへの強い愛情と誇りも伝わってきた。仕事を通じたすてきなブランド体験。一ユーザーとしても、これほど幸せなことはない。(iwatani)

**か**つて明治時代には、「天狗煙草」の社長が出した「驚くなかれ 税金たった百万円」という広告が注目を浴びた。社会に役立つ活動は、「一方向からの援助」が多かった時代を経て、今日、「企業と社会が共に幸せになる」という理念に至っている。今後の「for GOOD」活動がさらに進化することを期待したい。(葡萄)

**企**業が社会の支持を得るために努力するなか、広告業界はそれを怠ってきたのではないか。オムニバス調査の分析結果を前に、そんな思いにとらわれました。「広告は暮らしを豊かにしている」と感じている消費者は、わずか35%弱。社会や消費者から重く大きな課題が投げかけられています。(ひろた)

AD STUDIES 2016年9月25日号 通巻57号  
公益財団法人 吉田秀雄記念事業財団  
〒104-0061  
東京都中央区銀座7-4-17 電通銀座ビル  
TEL:03-3575-1384 FAX:03-5568-4528  
URL: http://www.yhmf.jp

発行人 森 豊子  
編集長 馬場栄一  
編集部 岩谷二郎 沓掛涼香 岩本紀子  
編集協力 市川嘉彦、プレジデント社  
表紙デザイン 八木義博+畠山大介、中谷晴子(Creative Power Unit)  
撮影 片村文人

本文デザイン 中曽根孝善 南 剛  
校正 株式会社ヴェリタ  
印刷・製本 大日本印刷株式会社

©公益財団法人 吉田秀雄記念事業財団  
掲載記事・写真の無断転載を禁じます。